

## 2012 年度 入学 試験 問題

# 日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問3・問6は記述解答用紙に答えなさい。問2・問4・問5・問7はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

中国大陸では、3世紀に晋が国内を統一した。しかし、北方から匈奴などの諸民族が侵入したため、晋は南に移り、中国は南北に分裂した状態となった。こうして中国が南北分裂の動乱期に入り、中国の朝鮮半島に対する支配力が衰えると、中国東北部に本拠地を持つ高句麗が南下政策を進めた。朝鮮のすぐれた文化や生産技術を求め、また、 資源を確保しようとした大和政権は、4世紀後半、百済とむすんで朝鮮半島に出兵し、新羅を圧迫して、さらに北方の高句麗とたたかった。この間の事情を知る重要な資料は、高句麗の  の碑文である。

5世紀に入ると、朝鮮半島南部をめぐる外交・軍事上の立場を有利にしようとして、大和政権は次々と中国の南朝に朝貢して高い称号をえようとした。倭王  はそのような朝貢の使者を送った倭の五王の最後の大王である。倭の五王の時代に大和政権の軍事力と経済力は強化し、国内統一は著しく進んだ。

589年に隋が中国を統一し周辺諸国に大きな影響を与え始めると、大和政権は607年に遣隋使を派遣した。その際、小野妹子が隋に提出した国書には、「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す。恙無きや、云云」と記されており、隋の煬帝はこれに不満を示したが、翌年、隋の使者として裴世清を派遣した。隋の使者の帰国とともに再び遣隋使が派遣され、そのとき、留学生の高向玄理、学問僧の旻・南淵請安らも派遣された。高向玄理は、大化の改新の際には、旻とともに  に任じられている。

618年、中国では隋が滅んで唐がおこった。唐は律令を統治の基本法とし、 制にもとづく統治組織を整え、軍隊を組織して、中央集権国家を発展させ、周辺諸国をおびやかしはじめた。朝鮮半島では、高句麗や新羅は国力の充実につとめたが、唐が高句麗に遠征すると新羅は唐とむすび、百済は倭国とのつながりを深めようとした。こうした緊迫した中国・朝鮮半島の情勢や唐の国家制度のしくみが中国から帰国した留学生たちにより伝えられると、倭国では氏姓制度をやめて天皇中心の強力な国家をつくろうとする勢力があらわれた。しかし、このころ、蘇我蝦夷・入鹿の父子が権力を握り、厩戸皇子の子の山背大兄王をおそい、自害させるなど、いぜん蘇

我氏は権勢をほこった。これに対し、645年、反蘇我氏の急先鋒である中大兄皇子と中臣鎌足らは、蝦夷・入鹿の父子を攻め滅ぼした。これを  の変という。

660年、唐は新羅とむすんで百済を滅ぼした。斉明天皇のもとで、倭国は旧百済勢力による百済復興を支援するため大軍を派遣したが、663年に白村江の戦いで、唐・新羅連合軍に大敗した。この敗戦を受けて国内で防衛政策が進められた。  
⑤

問1 文中の空欄  ～  に入るもっとも適切な語・人名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関して、4世紀の大和政権と百済との密接な関係を示すものにはイ、そうでないものにはロをマークしなさい。

- a 隅田八幡神社人物画像鏡
- b 石上神宮七支刀
- c 江田船山古墳出土大刀

問3 下線部②に関して、中国皇帝が周辺諸国の王を臣下とし、定期的に朝貢を受けるかわりに官爵を授けることを何というか。漢字で答えなさい。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 607年の遣隋使から、はじめて「日本」という国号を対外的に使用した。
- b 遣隋使を派遣して、隋の先進的な制度や文化を導入しようとした。
- c 『隋書』には、607年より前に隋に倭王から使いが派遣されてきたとの記述がみられる。

問5 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 大宝律令の編纂にあたったのは刑部親王などである。
- b 大宝律令は日本の実情に合わなくても唐の律令をそのまま受容した。
- c 養老律令の内容は大宝律令と大差がないので、日本の律令体制は大宝律令で整えられたといわれている。

問6 下線部⑤に関する下記の文章の空欄  ~  に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。

5世紀から6世紀にかけて、豪族たちは  やその他の関係をもとに構成された氏とよばれる組織に編成され、氏単位に大和政権の職務を分担し、大王から氏に身分を示す姓が与えられた。603年、蘇我馬子と厩戸皇子は冠位十二階を定め、氏族単位の王権組織を再編しようとした。冠位は個人に対して与えられるものであって  されるものではなかった。また、大化の改新で中大兄皇子は、大臣と  を廃止して左大臣・右大臣をおいた。さらに684年、天武天皇は八色の姓を定めて身分秩序を再編した。八色の姓の最上位の姓は  である。

問7 下線部⑥に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 筑紫に防人を配置した。
- b 大宰府の北方に水城を築いた。
- c 対馬などに山城を築いた。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問8・問12は記述解答用紙に答えなさい。問2～問7、問9～問11はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

17世紀末には、全国で6万を超える村が存在したといわれる。村は、幕府にとって支配のための行政単位であると同時に、そこに住む者の生活と生産の共同体でもあった。

村は、村役人を中心とする本百姓によって運営され、農業生産に不可欠な用水路の管理や、肥料・燃料・飼料などの共同採取地である [ 1 ] の管理、治安や防災などの仕事も村民の自治によっておこなわれた。また、農繁期の田植えや稲刈り、屋根葺きなどに際しては、相互扶助による共同作業がおこなわれた。

年貢・諸役は村を単位として課され、村役人が徴収して村全体の責任でまとめて納入した。このような仕組みは [ 2 ] とよばれる。

幕府の財政は農業生産によって支えられていたことから、農村は、幕府にとって重要な財政基盤であった。寛永の飢饉によって、年貢の収納が困難となる村が生まれるようになると、幕府は一連の対策令をもって農村の維持にとりかかった。1673年には、分地制限令を出して、名主は20石、一般百姓は [ あ ] 石以上の土地を所持する者に限って分割相続を認め、田畑の細分化による経営規模の零細化を防ごうとした。

農村対策は、享保・寛政・天保の三大改革における財政再建策のなかでも、重要な位置を占めている。将軍徳川吉宗は、支出を切りつめながら、抜本的な収入増加策として、新田開発や商品作物の栽培を奨励するとともに、年貢率の算定方法については、1年ごとに作柄をみて年貢率を定める [ 3 ] に代えて、豊凶に関係なく一定の年貢率とする方法を採用するなどして、大幅な年貢増徴を実現した。1744年には、幕府の年貢収納高は幕政史上最高を記録することになるが、それは農村の過大な負担のうえに成り立つものであった。

18世紀後半の農村では、商業的農業を通じて貨幣経済が浸透した結果、富を蓄えて豊かになる者と、田畑を手放して没落する者があらわれるようになり、それまでは同水準であった本百姓の間にも階層分化が進むようになった。田畑を失った者は、小作人となったり、農村を離れて江戸などの都市に流れ込んで都市下層民を形成する

ことになった。1787年、江戸・大坂などの主要都市で打ちこわしが発生した翌月、老中に任命されたのは松平定信<sup>⑦</sup>であった。寛政の改革<sup>⑧</sup>では、凶作でも飢饉にならないよう、困米が実施された。諸大名には1万石につき  石の米穀を5年間にわたり領内に備蓄させ、さらに各地に穀物倉を設けさせた。このうち、裕福な者の寄付によって拠出された穀物倉のことをとくに  とよぶ。また、財政緊縮策とともに、根本的な財政再建策として、荒廃した農村の復興策などがとられた。

19世紀に入ると、天保期は毎年のように凶作となり、厳しい飢饉にみまわれることになった。1836年の飢饉はとくに厳しく、翌年には大坂で大塩の乱<sup>⑨</sup>が発生した。1841年、老中水野忠邦<sup>⑩</sup>を中心として、「享保・寛政の御政事」への復古を方針とする天保の改革<sup>⑩</sup>が断行されるが、この改革は失敗に終わり、幕府の年貢収納高もついに回復することはなかった。

問1 文中の空欄  ~  に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。

問2 空欄  , 空欄  に入る数字の組み合わせとして適切なものを次のなかから1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a あ—5      い—10
- b あ—5      い—100
- c あ—10      い—50
- d あ—10      い—100

問3 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 村には、農業を主とする農村のほかに、漁村や山村、さらには定期市などを中心として都市化したものが含まれる。このように都市化した村は在郷町とよばれる。
- b 村切りによって、支配単位としての村の区域は確定されており、1つの村に複数の領主や知行主が同時に存在することはなかった。

- c 各村の寺院では、キリスト教徒を取り締まるために宗旨人別帳（宗門改帳）が作成された。これには家の代表である家長のみが記載され、戸籍の役割をはたすようになった。

問4 下線部②に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 村役人には、名主と、その補佐役である組頭のほか、名主・組頭による村政運営を監視する百姓代があった。村の責任者である名主は、西日本では庄屋、東北では肝煎とよばれることが多かった。
- b 村の運営は、村法（村掟）に基づいておこなわれ、これに背くと、一切の交際を拒絶され、挨拶もされず、火事や葬儀の際も助けを得られないといった村八分などの制裁が加えられた。
- c 村の運営にかかる費用は高掛物とよばれ、検地帳に登録された高請地を所持する本百姓が石高に応じて負担した。

問5 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 幕府は、租税負担者である本百姓の維持をはかるため、田畑永代売買の禁令を出して、田畑の売買を禁止した。これは、売主のみを処罰するものであったため、その実効性はなかった。
- b 幕府は、田畑勝手作りの禁令を出して、商品作物の自由栽培を制限した。庶民の衣料として普及した木綿は、この制限から除外された。
- c 幕府は、田畑勝手作りの禁令を出して、商品作物の自由栽培を制限した。しかし、商品作物の栽培を求める要望は強く、これは翌年廃止された。

問6 下線部④に関して、徳川吉宗によって登用され、備荒作物としてサツマイモ栽培の普及に努めた人物の氏名を次のなかから1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 青木昆陽      b 大蔵永常      c 田中丘隅      d 室鳩巢

問7 下線部⑤に関して、享保の改革期の勘定奉行で、「胡麻の油と百姓は絞れば絞るほど出るものなり」と放言したとされる人物の氏名を次のなかから1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 大岡忠相      b 神尾春央      c 荻原重秀      d 荻生徂徠

問8 下線部⑥に関して、貧農層が村役人ら富農層の不正を追及して、村の民主的で公正な運営を求めた運動を何とよぶか。漢字で答えなさい。

問9 下線部⑦に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 1782年の冷害からはじまった飢饉は、翌年の富士山の大噴火が加わり、数年に及ぶ大飢饉となった。白河藩主であった松平定信は、この飢饉を乗り切って藩政を立て直すことに成功した。
- b 将軍徳川家治のもとで老中に就任した松平定信は、御三卿の1つ田安家の田安宗武の子であり、徳川吉宗の孫にあたる。
- c 『宇下人言』は、松平定信が引退後に著した自叙伝である。

問10 下線部⑧に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 杉田玄白は、その著作『後見草』のなかで、「もし今度の騒動なくば、御政事改まるまじなど申す人もはべり」と述べて、打ちこわしと寛政の改革との関連を指摘した。
- b 農村の農業人口の減少を防ぐために、諸国山川掟を出して、出稼ぎを領主の許可制とした。
- c 農村の農業人口の増加をはかるために、旧里帰農令を出して、農村出身者のうち、近年江戸に住むようになった单身者を強制的に帰村させた。



問11 下線部㉑に関して、同年、平田篤胤の門弟の国学者が「大塩門弟」を称して蜂起する事件が発生した。この事件の発生地は現在の何県にあたるか。次のなかから1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 愛知県      b 三重県      c 新潟県      d 山梨県

問12 下線部㉒に関して、次の問に答えなさい。日光や小田原藩などで農村復興を手がけて手腕を発揮し、1842年、水野忠邦に抜擢されて幕臣となった人物がいる。この人物による勤労・儉約を中心とする事業法を漢字で答えなさい。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問7は記述解答用紙に答えなさい。問2～問6はマーク解答用紙にマークしなさい。(40点)

1911年10月、中国では [ 1 ] 革命の口火が切られ、三民主義を唱えていた孫文<sup>①</sup>を臨時大総統とする中華民国臨時政府が、翌年1月に南京に成立した。その直後の2月に清朝の [ 2 ] 帝は退位したが、他方で、軍閥の [ 3 ] が孫文に代わってその地位につくなど、政治的混乱が続いた。

抗日運動を抑えるために朝鮮に配備する2個師団の増設を求める陸軍は、 [ 1 ] 革命に刺激されてこの要求を強めた。しかし、第2次西園寺公望内閣は、 [ 4 ] 戦争後の慢性的な不況のなかで緊縮財政の方針をとり、2個師団増設案を承認しなかった。これに抗議して陸軍大臣 [ 5 ] は単独で天皇に辞表を提出した。陸軍は、軍部大臣現役武官制をたてにあって後任を推薦しなかった。このため西園寺内閣は倒れた。<sup>③</sup>元老会議は、桂太郎を後継首相に推薦し、桂は詔勅を利用して第3次桂内閣を組閣した。<sup>④</sup>

これに対して、 [ 6 ] 党の犬養毅と [ 7 ] 会の尾崎行雄を先頭とする野党勢力、新聞記者、三悪税廃止を求める中小商工業者らは、 [ 8 ] と [ 9 ] をスローガンにして、桂首相に退陣を迫った。この結果、桂は在職50日余りで退陣した。

1912年、東京帝国大学教授美濃部達吉は『憲法講話』を著し、統治権は [ 10 ] としての国家に属し、天皇は国家の最高機関として統治権を行使するという天皇機関説や政党内閣論を唱えた。その後東京帝国大学教授吉野作造は、民本主義を提唱し、普通選挙と政党政治を主張した。<sup>⑤</sup>

問1 文中の空欄 [ 1 ] ～ [ 10 ] に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 三民主義のひとつは民族主義で，これには清朝打倒という意味があった。
- b 三民主義のひとつは民生主義で，共和制をめざす政治的立場を表明したものであった。
- c 三民主義のひとつは民権主義で，貧富の差の拡大抑制を目標としていた。

問3 下線部②に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 孫文は，ハワイで中国同盟会を結成した。
- b 孫文は，中国共産党と提携し，第1次国共合作を実現した。
- c 孫文は，軍閥を打倒して中国全土を統一するため，北伐を開始した。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 軍部大臣現役武官制は，軍部に政党の力がおよぶのを阻止しようとして定められたものである。
- b 軍部大臣現役武官制は，山本権兵衛内閣により改正されたが，のちに東条英機内閣により元にもどされた。
- c 軍部大臣現役武官制という現役武官とは，現役の大將・中將のことである。

問5 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 元老は大阪会議にもとづき設置された機関である。
- b 元老は天皇を補佐したが，法的権限をもつものではなかった。
- c 元老はすべて首相経験者から選ばれた。

問6 下線部⑤に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 第2次山本権兵衛内閣は普通選挙制の導入に積極的であったが，虎の門事件による退陣でこれは実現しなかった。
- b 加藤高明内閣は，1925年に，選挙資格の財産上の制限を撤廃して，25歳以上の男女に選挙権を認める普通選挙法を成立させた。
- c 田中義一内閣のもとで最初の普通選挙が実施された。

問7 二重下線部の民本主義に関し，吉野作造はデモクラシーをなぜ民本主義と訳したのか，100字以内（句読点を含む）で述べなさい。

